

## 高梁市まち・ひと・しごと有識者会議（第2回）会議要旨

日 時：令和7年10月7日（火）15時00分～16時40分

場 所：高梁市役所 3階大会議室

出席者：委員 別紙名簿のとおり（欠席：三宅委員）

市 山川部長、赤木部長、波戸参与、内田部長、妹尾部長、藤井部長、  
森部長、伊丹教育次長、黄江事務長、内田消防長

庶務 大森秘書企画課長、宮田課長補佐

### 1 開 会（15：00）

### 2 あいさつ 井勝委員長

### 3 議 題

#### （1）総合戦略の施策評価について

前期基本計画の振り返りについては、第1回会議でご意見等いただいた。  
資料についてはご確認いただきたい。

#### （2）地域再生計画の実績・効果検証

##### 【質疑・応答】

○人を呼び込む、お金を呼び込むという視点から、引き続き積極的な取組を進めてほしい。

○高梁市は、観光客数自体減少はしていないが、観光客1人あたりの消費額が少ないことが課題である。今年度中に体制を整えたいと考えている。また、成果の記載にあたっては「広報を実施した」などの事実のみでなく、具体的にどの程度の広報を行ったのかを示す必要があるのではないか。

○同様に、具体的にどれほどの人がサイトにアクセスしたのかなど、数値的な裏付けを示すことが求められる。移住・定住の促進のためにも、地域の魅力向上を図ることが重要である。

○トップセールスの具体的な取組内容について説明を求める。

⇒山田方谷に関する事業については、企業版ふるさと納税の活用を念頭に置いており、関係企業に対しては関東方面を中心に訪問し、寄附を依頼してきた。また、高梁市出身の大企業トップへの働きかけも行っている。市外に本社を置く企業であっても市内に事業所を有する例は多く、今後も積極的にPRを行っていききたい。

⇒山川部長：今後調査を十分に行い、戦略的に事業を推進していきたい。

○中学生をアメリカに派遣するような、支援されやすい事業もある。どのような分野の事業が寄附の対象となるのか、また今後も多くのふるさと納税を見込めるのか伺いたい。

⇒人材育成や環境問題など、企業として社会的意義のある取組を進めていく必要があると考えている。

○SDGs に関連するテーマなど、企業側から見ても魅力的と感じられる事業が望ましいのではないかと。

### (3) 総合計画後期基本計画の策定について

#### 【資料3】R7 改訂版人口ビジョンの考え方と将来推計(案)

##### 【質疑・応答】

○計画は計画でいいが、どうやって人口減少のスピードを緩めていくか。出生数が減っているのは事実のため、いかに外部から入ってきてもらうかだと思っている。とにかくこれをどのように実現させていくかが重要だと思っている。

○高梁市の未婚率の推移が載っているが、高梁市で生まれる男女比にそもそも差はあるのか。

⇒2025 年時点の人口ピラミッドを見ると、0~4 歳人口の男女比に差はない。つまり、男性の方が高梁市に残り、女性の方が市外に転出する傾向にある。

○特にどの年代で転出する傾向になるかわかれば、女性の転出抑制をする手が打てるのではないかと。

⇒人口ピラミッドを見ると、25~29 歳から男女のバランスが崩れていることがわかる。

○なぜ男性が市内に残り、女性が転出してしまうのか。

○人口研究において、男女共高校卒業後市外に転出する傾向が地方ではあるが、男性は大学卒業後地元に戻ってくるのに対し、女性は帰ってこない傾向がある。その背景の一つに、女性が働き甲斐を持って働けるところが少ないということがあり、女性として活躍できる職場環境づくりが必要であると考えます。

○高校卒業後、どのような仕事を希望する傾向にあるのか？

⇒技術系高校と普通科で大きく異なる。技術系高校は製造業などが多い。

○若年層の転入の一番の理由として、「仕事」があるが、それはどのようなケースなのか。

⇒どの職種かは、アンケートからは読み取ることができない。

○高梁市内で働くものの市外に住む人もいますが、そのように市外居住の人、市外に転出した人の声を聞けば、転出超過の背景が見えるのではないかと。

⇒以前市内の製造業の事業所に一度アンケートをとった生活利便性・娯楽施設の充実が理由に挙がった。

○人口のデータは前回も出たと思うが、これだけだと、市の中でどのような計画を立てようとしているのかが見えてこない。地元で生まれた方が、特に女性が希望する職種があるのかどうか、が重要。雇用なのかフリーランスなのか、というあたりも関わっ

てくるかと思う。

○人口を減らさない計画と、減ることを前提とした計画づくりが重要。減った時に、例えば 2050 年、1 万 5 千人位になった時のまちは、どういうまちにするんだというところも考えた計画を立てる必要がある。

30 代男性の半数が未婚。帰ってきてても結婚してもらわないと人口は増えない。

#### 【資料 4】高梁市総合計画・総合戦略策定に向けて

##### 【質疑・応答】

○人口ビジョンから、市として「若年層を増やしたい」というメッセージが見えたが、どの世代でも増えてもらえれば嬉しいのか。

⇒人口が今後増えることは見込めない。その意味で幅広く移住促進をしていく必要があるとは思っている。ただ、どこに重点を置くかという意味で人口増が見込める女性の出産年齢層、若年層だと思っている。

○幸福度は大切だが、まずはお金がかからないことに取り組む、優先順位を決めることが重要かと思う。

○資料全般で、アンケート回答率は高いのか低いのか。対象者からきちんと声を拾えていないと問題を正しく抽出できず、正しく施策を打てないと思っている。アンケートの取り方に工夫が必要だと思っている。

○就職先があれば帰ってくるかと言ったらそういうわけではない。地域内で精神的負担がなく暮らせるということが重要だと思う。

○市民の機運を醸成していくかが重要。現状をもっとオープンにして、人口 1 万人になった場合、どのような影響があるのかをリアルに示せると、市民が危機感を持てるのではないかと思う。

○各論ではなく、全体としてどんな生き方ができるか？例えば結婚・出産に対して祝い金を出すとすると、結婚～出産を経る生き方を提示していることになる。このように、高梁ならではのライフスタイルを提示できると良いのでは。

○成人式など帰省のタイミングでアンケートやヒアリングをできると良いのでは。初詣の神社でアンケートとるなど。帰省した時に、まちとの接点がない。

○情報開示して、市民に自分ごと化してもらうことが重要。将来人口はこういうふうになるんだというようなことを市民に伝える。また、担当課ごとに計画作りを行っていくと狭い考えになるので、企画（庶務担当）で全体的な調整はしっかりと行ってほしい。